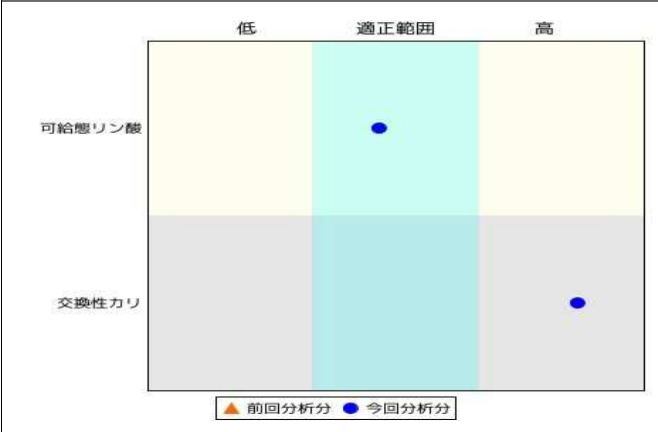


様	依頼先	広域土壌分析センター岩手	所属		受付日	2023/02/10
	サンプルNo	6764	JA	JAいわて花巻	支店	花巻地域営農グループ

■ 詳細情報

圃場		面積	10a	採土場所	南寺林	採土日	
作物	イネ	品種		栽培様式	作型	土性	
土壌種類		採土時期		作土深	農家コード		

■ 分析結果グラフ



■ 分析所見

・可給態リン酸は適正です。リン酸肥料は標準量(補給型)を施用します。  
 ・交換性加里が富化しています。加里肥料は削減または無施用が可能です。

■ 分析結果

分析項目	単位	分析値	目標値	適正範囲	前回値
可給態リン酸	mg/100g	18.0		10.0~30.0	
交換性カリ	mg/100g	52.0 ▲高い		20.0~40.0	
石灰飽和度		*			
苦土飽和度		*			
加里飽和度		*			
塩基飽和度		*			
Ca/Mg 比		*			
Mg/K 比		*			

分析項目	単位	分析値	目標値	適正範囲	前回値

■ 土づくり肥料 目安施肥量

	リン酸	石灰	苦土	加里	ケイ酸	鉄
10aあたり(kg)	0.0			0.0		

■ 特記事項

・作土深は10.00cmで計算しています。  
 ・仮比重は1.00で計算しています。  
 ・非火山灰土壌として計算しています。  
 ・定期的に土壌診断を実施し、過不足している成分がないか確認しましょう。

■ 土づくり肥料と投入量 圃場あたり(kg)

肥料銘柄	重量	リン酸	石灰	苦土	加里	ケイ酸	鉄
合計		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
過不足		0.0			0.0		

■ コメント

■ 土づくり肥料

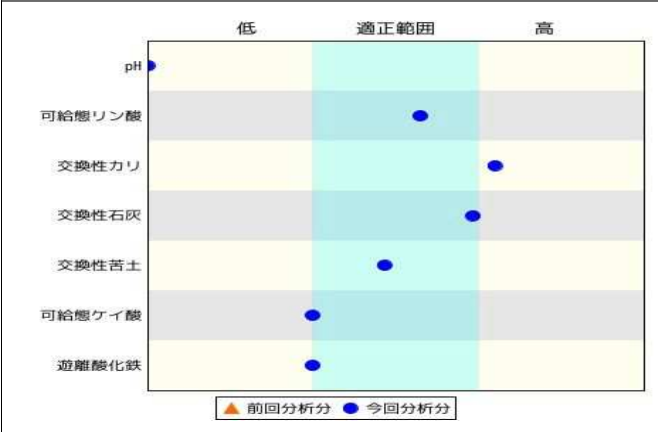
様

依頼先	広域土壌分析センター岩手	所属	JA	JAいわて花巻	受付日	2023/02/28
サンプルNo	8413				支店	営農センター石鳥谷

■ 詳細情報

圃場		面積	10a	採土場所	南寺林	採土日	
作物	イネ	品種		栽培様式	作型	土性	
土壌種類	非火山灰土壌	採土時期		作土深	農家コード		

■ 分析結果グラフ



■ 分析所見

- ・pHが低くなっています。
- ・可給態リン酸は適正です。リン酸肥料は標準量(補給型)を施用します。
- ・交換性加里が富化しています。加里肥料は削減または無施用が可能です。
- ・交換性石灰は適正です。
- ・交換性苦土は適正です。
- ・可給態ケイ酸は適正です。補給型施肥としてケイ酸を30kg/10a程度施用しましょう。
- ・遊離酸化鉄は良好です。
- ・石灰苦土比が高くなっています(6.6)。バランスに注意しましょう。
- ・苦土加里比は適正です(2.4)。

■ 分析結果

分析項目	単位	分析値	目標値	適正範囲	前回値
pH	-	4.8 ▼低い		5.5~6.0	
EC	mS/cm	0.71			
可給態リン酸	mg/100g	23.0		10.0~30.0	
交換性カリ	mg/100g	42.0 ▲やや高い		20.0~40.0	
交換性石灰	mg/100g	394		200.0~400.0	
交換性苦土	mg/100g	43.0		30.0~60.0	
可給態ケイ酸	mg/100g	15.0		15.0~25.0	
遊離酸化鉄	%	0.8		0.8~1.5	
石灰飽和度		*			
苦土飽和度		*			

分析項目	単位	分析値	目標値	適正範囲	前回値
加里飽和度		*			
塩基飽和度		*			
Ca/Mg 比		6.5			
Mg/K 比		2.4			

■ 土づくり肥料 目安施肥量

	リン酸	石灰	苦土	加里	ケイ酸	鉄
10aあたり(kg)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

■ 特記事項

- ・作土深は10.00cmで計算しています。
- ・仮比重は1.00で計算しています。
- ・土壌図(農研機構:日本土壌イベントリー土壌図、<<https://soil-inventory.rad.naro.go.jp/>>)から土壌の種類を推定できます。
- ・資材量が300kg/10aを超えるときは、数年かけて計画的に改良しましょう。
- ・分析値が有効態ケイ酸50mg / 100gを超える場合には50mg / 100g、遊離酸化鉄6%を超える場合には6%と表示されます。(分析値上限のため)

■ 土づくり肥料と投入量 圃場あたり(kg)

肥料銘柄	重量	リン酸	石灰	苦土	加里	ケイ酸	鉄
合計		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
過不足		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

■ コメント

- 交換性カリがやや高いことから、この成分を含む肥料と思われる過剰施用の傾向が見られます。
- ケイ酸は、毎年元肥として(補給型施肥分:ケイ酸成分30kg程度/10a)必要ですので、鉄分(遊離酸化鉄)が高い場合は「ケイカル(粒状)」を100kg/10a程度施用しましょう。(分析所見を参照の事)
- 定期的に土壌診断を実施し、過不足している成分がないか確認しましょう。

■ 土づくり肥料